

鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

第12回ワークショップ会議録

日 時：平成24年10月13日（土） 10：00～12：00

場 所：鎌倉市 第3分庁舎講堂

参加者：加者：公募市民：10名 関係団体：7名 計：17名 傍聴者：9名

ファシリテータ：齋藤 潮氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）

ファシリテータ補佐：橋本政子氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科齋藤研究室）

事務局：鎌倉市市民活動部産業振興課

加藤課長、近田課長補佐、根本事務職員

（財）漁港漁場漁村技術研究所

浪川職員、田島職員

東京工業大学大学院社会理工学研究科 齋藤潮研究室院生6名

プログラム

はじめに

- ① 本日の議題について

第1部

- ② WSメッセージの主題について
- ③ メッセージの発信先について

第2部

- ④ メッセージのまとめかた、内容について

終わりに

- ⑤ 次回のご案内

配布資料

第12回ワークショップ 次 第

資料－1：ワークショップからのメッセージについて

参考資料：現地調査後に寄せられたご意見

事前配布：第11回WS議事録（未定稿）

第1部

② WSメッセージの主題について

③ メッセージの配信先について

「WSメッセージの主題について」及び「メッセージの配信先について」について事務局から「資料-1 ワークショップからのメッセージについて」により概略説明を行いました。

F T :お手元にワークショップ（以下「WS」という。）次第がありますが、毎回この通りに進んだことがないので臨機応変に行います。前回の見学会を受けて、色々なディスカッションが行われて、そろそろこのWSとして最終報告をと言いますか、このメッセージを誰に向かって出すのかということを決めながら、それを意識した話し合いをしていかなければなりません。今日を含めた2回しかございませんので、そろそろ様々な意見の対立とか、あるいは意見の違いとかが出ていますが、それら反対し合っている意見をまとめるということは到底不可能ですので、WSの総意としてここまでだったら書けるということを決めたいと思っています。これまで寄せられたご意見等を今事務局のスタッフが学生を含めて集約作業を行っています。後程、結果を簡単に紹介します。

このWSでどんなメッセージを誰に向かって発信するのか、ということに関連するご意見を、ご提出されたご意見を基にしてでも構わないですし、今、この場で感じた意見でも構いませんので、お一人ずつご意見を頂きたいと思います。

その際に、もうWSとして、どういうことを市に、これだったら皆が納得できるのではないかと考えていることを考えられていて、そして、皆さんのお手元にWSのメッセージについてというメモがございますけれど、これはあくまでも皆さんがメッセージの方向性について意見を言う際の参考というものでして、ここがいかんとかいう話では、選択肢ではありませんので、その点はお間違えの無いようお願い致します。それから、発信先にしても、発信先によって書き方が変わってくると思うのですが、鎌倉市に対してWSからのメッセージという事なのか、それとも、鎌倉市民全体に対してWSからメッセージを発信したいのかによってメッセージの書き方が違うと思いますのでその辺を少し念頭においてください。この作業はもしかしたら次回に分けるかもしれません。今日ある程度これで良からうというまとまりがあれば次回それを文章化する作業をやろうと思いますが、ここで結論がつかないということであれば次回もこの問題を協議しな

第12回ワークショップ議事録

ければなりません。今日これからWSとしてどんなメッセージを誰に発信するのかについてご意見いただければ、ファシリテータ補佐（以下「FT補」という。）がこちらの紙に書き出して、それを後で集約できるように整理します。そのように進めたいと思いますがよろしいでしょうか。

それではそのように進めたいと思います。では最初に、このWSでどんなメッセージを発信すべきか、についてできればお一人ずつご意見を戴きたいと思います。それでは端から順にそちらの方どうでしょう。皆さんの意見を聞きながら考えますということであればパスしても構いません。では次の方をお願いします。

参加者：まず最初に、この未定稿というものが送られてきたところから始めても良いですか。これ、すごく全員の言葉が書いてあるかのように書いてあるんですが、これの、本当に細かい所まで、句読点まで全部書いてあるように見えるんですけど、実はマリン関係との接触の懸念があることとかを各ショップで対応して、みたいなコメントがあったところがごっそり抜かれているとか、あと、細かく共有しているところじゃないから省いているのかもしれないですが、例えば「小坪に何で移転しないの」というのに対し「それは引っ越ししなければならないから」とか、そういう議論があったはずなのに、そこがごっそり外されているんですよ。それまですごい細かい「家庭内ですみません」なんてところまで入ったりして、そういう風に全部書いてあるかのようにしておいて、ごっそり抹消されているところがあるというところがちょっと疑問に感じて、どうなのかなって思います。やはり誘導されているとしか思えないねって人も中にはいるんですけど、それがちょっと悲しかったです。とても色々やってくれているように見えてもこうして文字にしちゃうと、何でごっそり破棄しているというのはどうしてかなって思いました。

それから、私は、メッセージのこの間の三つを残してWSの成果としたなというところに、本当に賛成です。まとめるというよりまとめきれなかったから、次に、WSとしてのメッセージを託しますという形で締めるのが良いと思っています。台風の対策と、ビジョンの話、海づくりを含めた話と、どういう形にしてそうなるのか、まとめきれないのですが、そうやってメッセージを三つに託してやっていくしかないかなと思います。WSとしては議論を出しつつして、このWSとしての結論はもう出ているのだと思うんですよ。ここで賛成反対という二つに分けるというのもどうかと思うんですが、意見が違っている人が歩み寄りには確かにし

第12回ワークショップ議事録

て、理解が深まったと思いますが、完全に一つの意見にまとまることはないということが結論だと思います。だから、何らかのWSのような会を起ち上げたところに、こういう風なことを話し合ってくださいね、ということしかないと思います。ただ、そんなことをしている間もなく、台風対策は本当に早くしなくてはいけなくて、それを一番にやるべきかな、と思います。あとビジョンの話を、前回の見学会の後も、皆色々な意見を持ってここに参加した人たちが、皆あの話にのっていったというのが、これは良いなと思っているということだったので、それは、しっかり話し合う会が必要だと思います。

F T : 前回の見学会の後に、三つぐらい、私が皆さんの意見をまとめたものを提出しましたがけれども、それ以外でありますか。

参加者 : それ以外はないです。ちょっと今はまとまらないです。

F T : 次の方お願いします。

参加者 : 私も2年間やってきて、いよいよこれからまとめますよ、という時にどうやってまとめるのか、一番最初に、こういう事だからこれだけ2年間掛かってやる、という議論をしてきたのではなく、流れついて、その間色々な議論が伯仲し、どちらかというとなんな意見が出た中で、ファシリテータ(以下「F T」という。)が、サンドバックみたいに蹴られたり殴られたりして、耐えているうちに皆が、何とか協調できることはないか、ということで、馴染んできたみたいな、そんなような全体的な流れで、いよいよこれから2年間の成果をどうやって活かしていくか、ということでもまとめてくださいと言われたんですが、私も、今回出てくる前に、では何が根底なのかなと考えたんですが、要するに、漁港問題というのが60年前からずっとあり、箱物を造って解決していこうと、それに対して今回WSでは色々な意見が出て一筋縄ではいかないということで、環境問題、財政問題、それからいわゆる漁業のビジネスとしての自立性の問題、色々そういう問題が出てきて、むしろ箱物よりももっと別にやらなくてはいけないものがたくさんある、という意見が出ているのだらうと思うのです。従って、市がつくっている行政計画の中に、箱物としての港が入っているのですが、これをそのまま実行されると困るなど私は思っております。従って、そういうことで反対であるということが、はっきりと、行政計画を進める人、あるいはそれをコントロールする人にわかってもらいたい、市民の声として聞いていただきたいと思います。それを印象深く訴えるものであるには、どういう書き方をすれば良いの

第12回ワークショップ議事録

かということを考えてみたのですが、まだこれから2回あるので、その中で議論していきたいと思います。ただ、話の進め方としては、先生が言われたような三つのポイントというのはポイントだと思いますし、今回寄せられたご意見の中に、大変良いまとめ方をされており、私もかなり同感する部分が多いです。ただ先ほど言ったように、それをどうやってまとめるのが、議会なり委員の皆さんなり市民の皆さんなりに、今、行政計画で上がっているものを見直してもらって、今まで通り、一辺倒で一回決めたものをそのまま単に継続しているだけではおかしいのではないかと思います。その間に時代感覚も変わり、財政状況も変わり、環境に対する考え方も変わり、災害の発生する問題も変わってきて明らかになってきている訳ですね。今回そのメッセージの中で私が言いたいのは、こういう問題を60年間ずっと全く変わらずに放置してきた議会、あるいは市も、相当おかしいのではないか、やる気がないのではないか、汗流して働いてないのではないか、税金の無駄遣いをしているのではないか、むしろ、そういうような、何かこう怒りに似た気持ちも湧いてくるのが実感です。少し思いついたことだけで恐縮ですが、今そんなような感じしております。

F T : 漁港は反対であるという声もちゃんと明記してほしいということはわかりますが、そこを同じように、そうすると、造ってほしいという声もあったことも明記しなければいけないということですか。

参加者 : それはそういう意見としてあったと当然そうあるべきです。ただ、それは多数決という言い方はできないと思うのですが、私も自分だけのあれではいけないと思って、友人だとか全く関係ない人たち、いわゆるこういうものに関わっていない人に、こういう事やっているんだけどと言うと、一般市民の感覚としては、「おおそうか、大変だな」となります。ただ、税金使いますよ、それから環境問題についてもこういう問題が起こるかもしれない、と言うと、「それはまずいんじゃない。そんな事が起こっているとは知らなかった」となります。一般市民の感覚というのは「知らない」で、知らされると「お金が出ていくのではたまらない」というのが、単純な流れとしては一般的だったような気がします。やはり港を造るという以前に、今やらなければならない問題がたくさん出て来ますし、その中に手を付けるものがあるということを、そこからやっていくべきだと私は思っています。

参加者 : 今まで傍聴してしまして、今回初めて代理で参加させていただくのです

第12回ワークショップ議事録

が、私がまずここに呼ばれたきっかけというのが、自分は、相模湾の沿岸の海岸浸食が激しいということで、県の方で、今、計画の策定があったということで、鎌倉の海岸線を、海岸の砂浜をどう守っていったら良いかという観点から、この漁港の話聞いたのですが、やはりいきなり震災の後に、鎌倉漁港対策協議会（以下「漁対協」という。）の案を見せられたのですね。漁業者さんの気持ちとかちょっとわかるのですが、それは置いて、まず漁対協の案を見せられた時に市民感覚からいくと、ちょうど震災で船が港から溢れて家に乗かってしまったり、そういう状況がメディアで流れている中で、あの図を見させられて、浸食のことをやっていたがために、まず、あそこはダメだよねと、漁業者さんのためにもあそこはおかしいのではないかというところから、この話に加わらせていただいたのですが、実際、WSをやるからということで見てきたら、そこに決まったからそこについて語り合うつもりで来たのですが、全然そういうことがまだできてなくて、もっとそれより前の話で、住民の方に聞いてもその話は知らないと言う人がほとんどだった訳ですね。それでタイミングもあったと思うのですが、腰越漁港は今あれだけテトラを入れてコンクリートを入れて大きく造っていますが、あれは関東大震災の基準なんですよね。震災があって県の人たちも今度漁港造るなら、県としてはあれ以上のものを造らざるを得ない、という状態で、湾の中にあれ以上のものをやるの、とやはり普通の人は思ってしまうと思います。昔からあった計画だから、議員さんとか、市の計画というのは、中々止められないんだなというのは私もわかるんですが、やはりせっかくこういうチャンスがあったのだったら、皆でもっと良くしていく方法を、守っていけるものとか、育てていけるものを、ここで皆で考えられる機会があるのだったら、そうした方が、結局行政のやり方で、町が二分されてしまうような、今までのやり方では、せっかく坂ノ下というところはすごい良い場所なんですよね。もちろん漁業者さんとも海レクとも共有してきた歴史がある訳ですし、そういう坂ノ下の良さを知らない人たちで、荒らされたくないなというのが私の気持ちです。もちろん漁業者さんにはずっと漁業を続けてもらいたいし、私たちも協力したいし、今までも漁業者さんたちが鎌倉の湾を守ってくれたのは、浸食のことから勉強しても、今までの古い昔からの漁法を続けてくれたから、今の鎌倉、他の漁港周辺の砂浜から比べたら、本当に守られているのですよね。やはりもっと、そういうのを私たちも理解したいし、だからといって、今

第12回ワークショップ議事録

漁業者さんが大変なのをそのままっていうのは可哀想だったら、私たちも協力して考えるのですが、ただ一方的にあの図を見させられてしまって。本当はあそこって、多分一番、漁業者さんにとっても良くない場所であると思うし、それを一番漁業者さんが知っていると思うのですが、ただもう、そこしか場所がないとか、消去法でそこになってしまったという経緯だったと思うのです。とにかく前提にすごい不信感とか、土台が無い中で、このままこの計画を続けていかれると、そこに住んでいる人たちに、また誤解が生まれて、対立が生まれて、という腰越みたいなことにはしてほしくないの、もっと住民説明会を、こういう事が決まりましたからという住民説明会ではなくて、事前に、前提の段階で、こういうWSみたいなことをやっていると言うとちょっと柔らかく感じちゃうのですが、もう少しきちんと理解してもらえるものをつくってからにしてもらいたいです。

F T : 例えばということで挙げてあります、このWSのメッセージとしての三つということに関して異論はないですか。

参加者 : まず、漁業の将来ビジョンというのはすごく大切なことだと思うし、私たちもそれに対して理解はできるのですが、平塚新港みたいな感じで、ハードとソフトを同時にやってハード先行でいった結果、結局後からソフトが追い付かず、シーフードレストランなどのそういう市民向けの企画は全部停止状態になってしまっていて、ハードだけが残っていますが、実際そこは利用状況が20%だとかということになるので、漁業者さんが並行してこの議論を進めていくべきだという話をしていたのはわかるのですが、やはり今の時代、そのビジョンが落ち着いて、ある程度成果が出てから、ハードのことを考えていったら良いのではないかと思います。

F T : 失敗例もあるのでその辺をケアしてくださいということですか。

参加者 : そうですね、すぐそこで起こっていることがたくさんあるのですから、鎌倉はこれまで守られてきた、海岸線や海水浴のこともそうですが、本当にすぐそこで起きていることなのですから、もったいないので、それを踏まえてください、ということです。もっと勉強してからで全然良いのではないですかということです。

参加者 : まずメッセージの主題で、大枠ではこの三つだと思いますが、今この三つで自分は特に異論はございません。感想とかも述べて良いですか。

第1は、鎌倉の漁業の将来ビジョンというのがあり、鎌倉の漁業が衰

第12回ワークショップ議事録

退しつつあるような感じを受けたので、これはこのまま衰退して良いですかということをお皆さんはどう思っているのか、です。鎌倉の漁業の現状をちょっと説明した方が良いと思います。漠然と将来ビジョンと言われても現状がわからないと、どうすれば良いのかわかりません。当面造らない方が良いという意見もわかるのですが、では、造らなければ造らないで、造らなかつたらどうなるのかという、造らない方が良いというので、では造らなくて良かったねと。造らない方が良いという人は、それで造らない、でOKでしょうが、逆にデメリットもあるので、そこもちょっと教えてもらいたいなという感じですか。あと、メッセージの発信先に鎌倉市長という話もありえますが…それが一つです。

あと、主題として、皆さん、一市民の目線、とか、市民の意見だ、市民の感想とか、おっしゃいますが、基本的に公募市民19名ですし、関係団体を入れて38名ですから、一括りに市民の意見と言われると、ちょっと、と私は思います。だから、メッセージの主題に、手を挙げて応募された19名の方がここにいらっしゃいました、そういった方々のご意見です、という感じが良いです。それで、市民の意見を聞きたいので、もっと色々な方から、何か意見を、メールなどでお寄せください、とするのも良いと思います。以上です。

F T : ビジョンを書くのは良いのだけれども、現状をきちんとはっきりした方が良いのではないかというお考えですね。

参加者 : 特に鎌倉地域の漁業と現状はこうこうこうだから、この漁港ができるだけ早く必要です、と。で、これを造らない場合、こうこうこういう風な、良い点もあるのでしょうか、困るなということもあると。それで、市民の意見というより、実際は19名とか38名の方の意見ですよ、と。発信先は市長も入れてほしいです。以上です。

F T : このWSの位置づけについては、また、後程事務局からもう1回、再確認があると思います。それから、造ってほしくないと思っている人もいるし、造ってほしいと思っている人もいるということはちゃんと書くことですね。

参加者 : 前回現地見学した時の意見交換会で、この三つが出されたんですよ。それで私は良いと思います。これからのメッセージとして。それだけです。

参加者 : たまたま、「資料1 ワークショップからのメッセージについて」という資料を頂いたので、基本的にはこれに沿って思うところを述べたいと思

第12回ワークショップ議事録

います。メッセージの発信先がどうあるべきかというのがすごく重要だ
と思うのですが、私の考えから言えば、やはり一義的には市民宛だと思
います。さっきどなたかがおっしゃいましたが、あくまで1チームの代
表としてなので、それが、皆さんそう思いますか、という意味では、限
られたメンバーの中ではこう思いましたが皆さんは、というのが重要な
ところだと思うので、一義的にはもちろん市民宛だと私は思うのです。
ただ、一方においては、それを実行したりあるいは牽制したりするのは、
例えば行政というか市の職員さんでもあるし、市長でもあるし、あるい
は議員さんでもある訳ですから、そういう意味では、やはり現実的には、
鎌倉市宛ということなる、という風に思います。それが発信先のイメー
ジです。つまり行政の人たちに届かないような書き方は「うーん」とい
うのはありますが、市民向けに書いてほしいなという意味です。

メッセージのまとめ方とありますが、これは色々あって、書かれた理由
もわかるのですが、これはやはり限られた中でやっていくには、事務局
の方に取りまとめていただくべきだと思うし、多少プロセスが面倒くさ
いかもしれませんが、1回、2回、キャッチボールをして必要なところは
直すというのが、前回同様、現実的ではないかなと思っております。メ
ッセージの主題という部分なのですが、一番大事なところなのですが、こ
れはFTが挙げられた三点が色々な意味でこれまでの議論を包含してい
ると思いますので、全然異論がないです。ただちょっと、やや、ですね、
別に穿った見方をしている訳ではないですが、頭出しが「三つあるんで
すが」と、当然この1・2・3が不可欠というか必要です、という締め
だと思し、ちょっと気になるのは、本来、ではそれらが不可決ですね、
必要ですね、といった話が、さっき言った並行なのか先行なのか、とい
う部分ですね。これはちょっと色々なところでまだ意見がぶつかってい
るところもあると思うんですが、私は、これらの主題が先行である、と
いう理解で考えているんですが。マジョリティな意見としてですね。こ
れは意見がぶつかることもあるので整理した方が良いのではないかなと
は思っています。

加えてですが、ちょっと横にそれますが、今日配られた「参考資料 現
地調査後に寄せられたご意見」という中で、皆さんすごく鋭い、真剣なこ
とを書かれていると思うのですが、特にこの[ご意見1]に出てきた話と
いうのは、非常に、文脈もですが、私的には非常に鋭い意見だなと思っ
ており、ほとんど一致しています。色々な部分に、随所に、かなり鋭い表現

第12回ワークショップ議事録

があって、後で皆さんにこれについて伺いたいのですが、この[ご意見1]どなたが書かれたかわかりませんが、かなり言いたいことは、特に「2 当面意味」とかですね、2ページ目の中段とかですね、かなり鋭いなど思っております。ぜひ活かしたいと思っております。最後に私の言いたいことなのですが、さっきのこのメッセージはこの文面通りでよろしいと思うのですが、前回、私とその当面の意味って何でしたっけと自分がこう、話を振ったのですが、自分なりに過去の資料とかを振り返ってどういう話だったっけと整理しました。考えたら、なんで今駄目なのですかというような主旨の部分というのは確かに出尽くしていました。それで、どこに出ているのかと思ったらやはり、主なところでは前年度の報告書の中、あるいは今年度になってから第9回WSで事務局がお配りになった「資料-3 解決したい課題とその対策例及び懸案事項」という資料があり、かなり鋭く整理されています。これを、どれが必要ですね、必要じゃないですねという議論は、確かに、あまりしても仕方が無いなど、改めて思っています。ただ、そこで思ったのは、そういった課題が仮にあったとすれば、それはどうすれば解決できるのですか、という、クリアする要件とは何だろう、ということをおもいました。特に自然環境と海岸侵食の問題とか、極めて高度に専門的な話というのがあります。それはイメージ論で議論しても絶対解決しない訳であって、何をもってこういう問題を解決と言えるのか、という部分は必要だと思えます。一案ですが、特に専門性の高い部分については、例えば個々の議題毎に専門家と市民なり行政なりを交えたような、ミニ協議会というか、場があり、それを踏まえて、1個1個、課題を解決していくというようなやり方が、結構皆わかりやすいのではないかなと私は思いました。それが追加の提案その1です。

追加提案その2は、これも常々思うのですが、WSはこれで終わりますと、一方で、ここにまとめた成果があるのですが、一方ではこれまで漁対協という成果がありましたと、我々の成果と漁対協の成果とは、どういう位置づけになるのでしょうか。WSとして漁対協についてはこう思うという意見を入れた方が良いのか、そうしないとある意味相容れない点が二つ残ったのですが、さあどうします、という表現は、それこそ市民の人は混乱すると思えます。考え方や立場はあると思うのですが、ある程度漁対協案についてはどう思うという。実は前年度の報告書の一部に盛り込んであるのですが、極めて概念的なことしか書いてないので、もしかしたらそういう項目をまた作ったら良いのではないかなという気はちょっとしてい

第12回ワークショップ議事録

ます。以上です。

F T : 主題については先行とおっしゃったのは、港を造るということに関してですか。

参加者 : はいその通りです。そういう意図があって書いているとは思いませんが、「課題です」という切り出し方だったので。もちろんこれ、「必要ですよね」という意味で書かれたと思ったのですが。書かれてあった通り。ま、こういう文的にはいないという人はいないと思うのですが、では、漁港だ、という話をした時に、かえって、並行で考えるべきことですか、先行で考えるべきですか、という議論が今回はありましたので。中々結論は出ないと思うのですが、ちょっと整理した方が良いのではないかという気はしました。それこそ読み手が誤解しないようにと思っています。

F T : WSが終わっても様々な課題があるわけだから、課題を解決するために小さい勉強会とかを開いたりしてほしいということですね。

参加者 : そうですね。悪口を言う訳ではないのですが、例えば現地の環境調査をしましたかと、市役所の方は「しました」とおっしゃる訳です。すごく意地悪な言い方をすると、あんな天気の良い波の静かな日に、海の中に潜り込んで、砂地でしたねって海藻が生えていましたね、というレベルで、果たして十分と言えるのかという疑問は、やはりこれは根底にある疑問なのです。言い方がきつくて申し訳ないのですが。もうちょっと定量的な話とかも、盛り込んでくれないと理解できないということです。あくまで定性的な評価ですから。否定はしませんけど。そういう意味ではやはり専門的な話というのはイメージだけで言っても絶対にかみ合わないなという思いがあるので、という意味です。

参加者 : メッセージの主題である、「1 鎌倉地域の漁業の将来ビジョン」、「2 台風被害など、喫緊の課題に対する解決策」、「3 行政に頼らない、市民による水産業支援への取り組み」これはF Tがまとめられたと思うのですが。

F T : 皆さんの意見を集約しただけです。

参加者 : 見ればわかる通り、それぞれ、1、2、3、と範囲が随分違います。1は非常に広い範囲のことを言っていて、2、3は非常に具体性をもっている訳ですよ。並行ではちょっと語れない気がします。あえて言うならば、「1 鎌倉地域の漁業の将来ビジョン」、その中に「2 台風被害など、喫緊の課題に対する解決策」、「3 行政に頼らない、市民による水産業支援への取り組み」というのがあって、2は下にくるというのですか、具体案として、

第12回ワークショップ議事録

その内容として、あるというのが自然だと思います。それが1点。

それから、これは鎌倉地域の漁業と漁港に関わるWSなのに、この主題の中に漁港と言う文字が一つも無い訳です。漁港を造るということが非常に厳しい状況であることはわかっているし、それは色々な意味で、漁業者の立場としてもわかっていますが、安全操業と効率の良い漁業を営むために、漁港を造ってほしいという思いはこれからも変わらない訳です。その思いを一体どこに持っていくのか、1、2、3のメッセージの中のどこに組み込んでいくのかということを考えてみると、穿った考えをするとこれ、1というのは、実はこれ、漁港に関することも含めた将来ビジョンという風にここに書かれているのかもしれませんが、鎌倉地域の漁業と漁港の将来ビジョンという風には書くと、非常にその反発が大きいということで漁港と言う文字が抜けているのではないかという気がするのです。違うかもしれませんが。やはり漁港に関してこれだけ話し合ってきた訳ですから、主題の中にやはり漁港建設をどうするかということは、項目としてはやはり必須なところだと思います。だからそれを含めて、「1 鎌倉の地域の漁業の将来ビジョン」の中に、「その1」として、漁港建設をどうするのか、あるいは台風被害などに対する解決策をどうするのか、水産業による取り組みをどうするのか、というようなことではないかという印象は持ちました。メッセージの発信先は鎌倉市民であることは当然なのですが、一体どのようにしたら、十分、効率的にこの情報が伝えられるかというのは、もっともっと検討すべきだと思います。メッセージのまとめ方に関しては事務局が取りまとめるということで、それをたたき台に討論するということがよろしいのではないのでしょうか。

F T : 漁港に関するお話ですが、確かに今までずっとWSをやってきて、漁港に触れるとそれはちょっと困るという方もいらっしゃいましたし、漁港を早くほしいのだという方もいらっしゃいました。共通のメッセージとしてどういう書き方をすれば皆がそれ自体をよろしいと思えるかが大事なのだと思います。何かお考えはありますか。

参加者 : 漁港建設はなるべく早い方がよいという意見は当然ある訳ですが、ただそういう簡単な問題ではないということも、色々な議論の中で理解している訳です。端的に言うならば、いつの日にか、条件が整えば、漁港建設はやはり実現してほしいというのが漁業者の願いなのです。条件が整えば、ということの中に本当に色々なことがあると思います。条件が整

第12回ワークショップ議事録

えば、ということの中に、例えば水産業の取り組みであるとか、環境の変化であるとか、色々なことがあると思うのですが、そのものを入れることによって何か漁港建設が推進されるとか、そういう事ではなくて、漁港建設はあくまでも、将来的にはやはり我々漁業者の願いだということは、やはり周知していただきたい。その周知する項目がこの主題3項目の中には一見すると欠落しているような気がして、ちょっと心配だなということです。

F T :あの三つのメッセージ、三つかどうかわかりませんが、仮にこういう主題に対して合意されたというのとは別に、明記すべきこととして、これについては統一した見解は得られなかったが、こういう意見が出たということ明記する、そういうことですか。

参加者 :そうですね。たぶんこれ、1が鎌倉地域の漁業の将来ビジョンということと、3の水産業支援への取り組みについては、ある意味非常に重なって見えているようで、実は1の鎌倉地域の漁業の将来ビジョンという中に、将来条件を整えば漁港を建設するという、あるいはそれが漁業者にとってのやはり悲願であるということは含まれているものだという風に理解すればこれで良いのですけどね。

参加者 :うまくまとめられるかどうかわからないのですが、私個人の意見というかこれまでの感想として、WSを始める前は漁港に対して反対だったのですね。ただ、今現時点では漁港は造った方が良いのではないかというのが私の意見です。どういうことかという、「ただし」が付くのですが、その「ただし」が結構大きくて、メッセージの主題の1にある、漁業とか漁港の将来ビジョンというところが、参考資料「現地調査後に寄せられた意見」の意見1にちょっと書いてあったのですが、結局、今、海を使っているのは漁業者の方とサーファーの方がいるのですが、それぞれやはり、漁港を造りたいと言うと漁業者が漁港造りたいんだろうなという意見だとすると、やはり反対はすごく出ると思うんです。ただそこが、海を使う人、例えばサーファーと漁業者と一緒に使える場所があって、そこにかつ、例えば市民が参加できて、サーフィンもやれるし、冬になったら漁業者みたいな、皆、海を使って楽しめるというところまで行けると、いや、そういうのだったらあっても良いんじゃないかという気がしています。前回、浜小屋とかを見させてもらった感想としてなのですが、逗子の小坪漁港にあった、ああいう形は反対でして、浜小屋を見た時に思ったことが一つあって、道路から景観を崩さないように浜小屋の

第12回ワークショップ議事録

高さを制限されているということもあったし、実際に浜小屋があつて砂浜もあつて、砂も流されていて、そこにまた土嚢が積まれている状況もありました。結局それって、綺麗にする、景観を守ろうと言いつつも、意外とぐちゃぐちゃだったな、という印象がありました。であれば、これはすごく簡易的な話なのですが、道路からちょっとした所にコンクリートで斜め状に、ちょっと絵を描いたので、後で出しますけど、斜めの状態に半分地下ぐらいに造って、そこをちゃんとコンクリートで覆って、そこに浜小屋の施設を造り、ある部分はサーファーのストックヤードみたいなもので、貸し出す、みたいなことやっても、おもしろいのかなと、ちょっと思ったりしていて、そうすることで、津波が来た時に、防波堤がちゃんと垂直になった方が強いというのものもあるのかもしれないですが、その辺は建築の人に任せるとして、サーファーが使えるし、漁業者が使えるし、かつ対話できる場ができるみたいなところが、おもしろいのかなというのと、後は、将来ビジョン的なところで言うと、意見に書いてあったように、小学生とか未来をというところに関して言うと、漁業者の方としては漁に出て収入を得るのが第一なのでしょうが、教育プログラムに完全に組み込んでしまい、鎌倉の小学校とかに授業として漁を体験するという取り組み。漁業者の若手のチームに任せて、一度、ふれあいの場を作ってあげたら漁業者を育てていくというところと、漁業をちゃんと伝えていくというところができるようなプログラムがあっても良いのかなと思いました。メッセージの発信先としては、難しい問題ですが、誰が出しても意外と反対は出るだろうというのが私の感想で、意見が出れば出る程まとまっていかないんだろうなというのは、これまで色々な会社とかで参加した経験なので何とも言えないです。私の意見としてはまとまっていらないですね。あとメッセージのまとめ方としてはWSとしてまとめていくのが良いのかなと思います。実際にはうまくまとまらない可能性もありますが、それも含めてそのまま出してしまった方が良いのかなというのが意見です。

F T :先ほど、浜の使い方をどう共生していくかという話と、子供たちを含むプログラムの中で一緒にやっていくという話をされましたが、これを議論の中に含めた方が良いということですか。

参加者 :そうですね、あと、3にある「行政に頼らない市民による水産業支援への取り組み」というところは、ちょっと別個に分けてもっと大きい形でやれた方が良いのかなという気がしています。こちらに関して私は、すご

第12回ワークショップ議事録

く興味もあるし参加もしたいです。喫緊の課題ということでいくと、先ほど言ったように、わからないですよ。市にそれだけ財政力があるのかわからないですし、それが本当に景観を守るのかもわからないですが、インパクトが少ない形で景観を守りつつ、浜小屋も守るという、そんなことをちょっと見学で感じました。

参加者：特別ありません。常識的にやって常識的な行動をすれば良いと思っています。ただ「参考資料 現地調査後に寄せられた意見」で、「意見 5」は中々良い意見だなと思っています。結果的、皆色々な意見が出た要件等々が、結果、そういったことも皆含まれていますよ、というのが私は望ましいなと思っています。

参加者：私も今の「意見 5」が良いと言うのは、ちょっと見ましたけども。私の意見としては、前の前の漁業者さんの意見とほぼ同じです。ただ条件は、先ほどもお話に出ていましたが、やはり反対派の方も多いですし、それから賛成の方もいらっしゃる、漁業者の方も当然なのですが。やはり並行して明記すべきだろうと、条件はその一つにまとまると思います。あと、やはり造るのでしたら、先ほどあったお話のように、漁業者の方だけが利用してということではなくて、市民全体が利用できるというような多目的な施設ということが必要ではないかと思います。これによって海岸線がきれいになったり、一つの目玉となるような事業をやってほしいと個人的には希望していますので、そこが明記されていればより良いのではないかなと思います。

参加者：メッセージの主題に漁港ということが入ってなくて、それはどういうことなのかなって考えていたのですが、最初の1年、漁港を進めていこうということと、いや色々考えがあるんじゃないかということで、中々対立の状態であまり話が進まなかったと。で、成果として報告書がまとめられたと思います。なので、そういう対立を避けるために今回のまとめからまったく漁港というものをはずそうということなのか、それとも市の、加藤課長の方は、漁港は必要という立場なので、最後にどこかに条件は整いつつあるとかなんかそんなメッセージが入っちゃうのかとか、

F T：信用していませんね。

参加者：はい。だって、必要という立場なので。こういう理由であると良いというのがあるということなら良いんですが、必要っていうのもう造るっていうことが前提じゃないですか。それはおかしいと私は思っています。1年間揉めたところを見てみてやはり環境面への不安というのがたくさん

第12回ワークショップ議事録

出ていたと思います。要するに、地域の人間とマリンスポーツ関係からなのですけども。やはり、湾の中に構造物を造ると潮の流れが変わって海岸線がどう変わるかわからないと、そういう話が出て、色々なご意見いただいて、調べてみたらやっぱり色々な所でそういうことが起こっています。なので、個人的には湾の中に構造物を造るのは環境的に納得できない。要するにどう変わるか事前に予想ができないので、ちょっと難しいのではないかと思います。特に市民がその辺を色々と理解していくと反対の声がすごく強くなると私は思っています。運動は強くなると思っています。今回は皆、共通意見としてまとめていこうということを考えて、その意見を入れることはできないと思っています。ただ、「条件を整えば」について、まったく漁港に触れないならそれで良いのですが、漁港に触れるのであれば、条件の所を少しはつきりしておきたいなと思います。一つあるのはやはり環境面ですね。やはり市民が知らない間にならないためには、専門家と市民を交えた委員会なりWSなり、何と呼ぶのかわからないですけども、しっかりと環境面を、皆が納得する形で検討する過程を設けてほしいと。これなら全員で納得していただけないですかね、と思いますけど。

参加者：平行線になってしまうのでは。

参加者：いや、平行線になってしまうということは、科学的にちゃんと示せない、平行線ということは、やはり、そうしたら市民投票にするとかを、できたら議論してください。

F T：今のお話に関して、どなたかもおっしゃられておられましたが、主題に漁港の話がないというのはなぜかということについて、皆さんお察しの通りに、漁港ということを入ると、それについて賛否両論あるということですから、私の今までの感触では、この三つについては特に異論はなさそうだけれども、漁港をどうするかについては意見が対立したので、それぞれ反対者はこういう理由で反対したし、賛成者はこういう理由で賛成しているのだということをやちゃんと明記する、ということをして市議員やあるいは市民か、市長かわかりませんが、そういう風に伝えるということになるのかなと思うのですが。いかがですか。

参加者：それでは、そのところは1年で終わったのではなくて今回また載せるということですね。

F T：それが一番フェアじゃないかと思うのですが。反対者もあり、賛成者もある、それぞれの理由があります。ただ、今のご提案はもう少し前向き

第12回ワークショップ議事録

で、条件を明記する、こういう条件がクリアされなきゃいけないのではないかと。先ほどの方もおっしゃたけれども、課題があって、その課題を克服して作業が今後も続くというのと、それから意思決定プロセスに市民が入って議論をするっていうことが非常に重要なんじゃないかということですね。

参加者：前回の現地の見学はお疲れ様でした。我々漁業者といたしましては、前回のような風の時ばかりでなく、船の出入りも、荷物を積んで出入りしている訳でありまして、あと沖での作業なのですよね。船の動力化、そういったものが、船が小さいもので中々そういったことができなくて、網揚げの機械なども重いので載せられない訳なのです。砂浜の現状なのですが、台風が来る度に、砂がもっていかれて侵食の状態であります。強いて言えば、漁港というのは将来的に必要だと、私はそう、組合でもそう思っております。ただし現状を維持していくには、それなりの対策、早急な対策をやっていただきたいと思います。それも市民の皆さんにご理解いただきたいと思います。以上です。

F T：皆さんも、今喫緊の課題として、このままじゃ駄目だなということは理解済みですから、それについて何か対策を打つようにというメッセージを入れるというご意見は出ていましたね。

参加者：あまり話すのがうまくないので自分の感想を言います。私はやはりどうしても港が必要ではないかと思えます。何回も何回も砂を繰り返し入れるよりも、箱みたいなものがどうしても必要じゃないかなと思っております。何で漁業者さんはこんな辛い所でやっているのかなと、皆さんは思うかもしれないのですが、やはり魚を獲るのは面白くて、何と言ったら良いのかな、獲れない時もあるし、獲れる時もあるのですが、わくわくする、エキサイティングしてくるのですよね。そういうのをやはり若い人にも教えたりして若い人も増やしていきたいなと私は思っています。そのためにはやはり今のままでは駄目で、浜小屋が流れたりなどの被害とかもあります。この間、船を押してもらって出しましたけれども、あれは大変ですが、他の仕事も大変なものもわかっているので、あれだけが辛いわけではありません。家族が、戻ってくるのかなという不安もなく、安心安全で仕事がしたいですというのが本音です。

参加者：WSのメッセージということで、主題についてですね。WSは鎌倉地域の漁港から始まって、そのうち会議で漁業というのが入ったのを、1の鎌倉地域の漁業の将来ビジョンではなく、漁港というのを入れていただき

第12回ワークショップ議事録

たいなということです。あと、メッセージの発信先というのは、皆で聞いて理解してもらえれば良いなということで、その下にあるまとめというのは、またその後の議論になると思うのですが、その時また組合としての考えを言わせていただきます。

F T : 先ほども申しましたが、賛成の人と反対の人が分かれているので、どうしても一つにまとまりません。この書き方としては、反対の人がちゃんとして、賛成の人がちゃんといいますと。なぜ反対なのか、なぜ造ってほしいのかということ明記するということではいかがですか。

参加者 : それは反対も賛成もあるので、良いです。

参加者 : WSで色々な意見が出るというのは、当たり前なこと、全員がその線には反対というのもないし、それぞれのことに対する理解の度合いや参加の具合は違います。それは良いと思うのですよ。それがこのWSとして、昨年度、結論付ける場所ではないということを書いて、提案された方がいるように、これだけの意見があったと、意見を出せば良いだけです。先ほどの方が、これ19人でしょと、皆集めて、全部で19人しか集まらなかったと。その中に非常に偏った委員の選出というのがある訳です。一つのマンションで6人が出ていると、もっと出ているかもしれません。これがいけないというのではなしに、民主主義で、そう出るのであれば、こういう意見がこういう状況であったと、その様相を映せば良い訳です。先ほどの方が言われるように19人で、これ全部で鎌倉を代表する市民と言えるのかということ、これは明らかに違います。私が言いたいことは、まず60年の間、私が直接委員として、あるいは副委員長として、あるいは部会長として参加し、今、公式にレポートが残っている都市マスタープランからいきますと、平成7年スタートです。今、平成24年ですよ、それからこれは結論付ける場ではないということで、その次のマスタープランのWSがあって、これも結論付ける場ではない。市民が何百人と集まっています。鎌倉地区、非常に広範囲な所で市民が集まっています。特定の所のいわゆる住民という形ではなくて、市民の声というのも今蓄積されて、正式にマスタープランの中にあります。私は今日持ってきていますが。特にですね、マスタープランの委員会で、平成の15年、17年で決まりまして、(仮称)鎌倉漁港の整備の検討、ということが、マスタープランの正式の案として載っております。それから、次に市民100人会議、これは市民が144人。マスタープランで市民が何人集まったかということと数百名です、鎌倉市全域から出ております。

第12回ワークショップ議事録

名前も皆載っております。市民100人会議は、何と今、総合計画に載っております。議会が賛成して、これは、コピーがほしい人には差し上げますが、鎌倉地域の漁業の推進、こういう風に決定されて今総合計画に入っております。これはだから、このWSでどうこうという問題ではなくて、このWSはWSで、意見を出せば良いのです。それをプロが、反対があり賛成があってもどういう理由で反対で、どういう理由で賛成で、どういう人がそう言っているのだということを、ちゃんと出せばそれで良いと思います。あえて漁港を造るというWSで漁港をはずすということは不自然だと思います。ですから、どういう漁港、今、3月11日から変わってきていると思いますが、どういう漁港を造ったら良いかというような、日本の中で。そういうことを取り入れ、また環境の問題もあるでしょう。そういうことも多く取り入れて考えてほしいということを送れば良いのです、このWSとしては。これが大事な仕事なのです、と思いますよ。このWSで決めてどうこうというのは不可能でできません。市民のたった19人ですよ、悪いけど。たったと言うといけませんけど。それまでのマスタープランで何百名、これ誰の、具合が悪いので言わないのですが、明日の鎌倉をつくる市民100人会議で市民が144名で論じ、しかも議会を通過した総合計画にランクされています。そこでは鎌倉漁港の整備の推進ということをはっきり謳われています。必要がありましたら後から来ていただければ、コピーがあります。それはどういうことかと言うと、最初にこれ、市から送られたものですが、これの平成6年ぐらいから平成24年までの間の色々な努力が市民を中心としてやられて記録が残っていると、こういうことなんです。これを我々が否定することはできません。我々がやれることはこのWSの中の意見に対立があれば対立があったと、こういうことをしたい、環境という砂浜の問題を持ち出された方がいると、誰もそれが大事でないと言う人は一人もいません。皆大事なことなのです。それが色々なレベルに応じて出ているということが、こういう委員会の特徴なんです。恥ずかしいことはないです、こういうWSだったと、委員はこういう構成だったと。マスタープランは全部残っています。100人会議も全部名前が残っています。そういう風に出せば良いじゃないですか、というのが、私も先ほどの方の意見をお聞きして、それから漁業者の方もすごく的を突いたことを言われました。漁業ということが謳われていて、漁港ということが謳われてないのはこれおかしいよね、と。私もそう思います。あえて軋轢を避けるた

第12回ワークショップ議事録

めに選ぶというのはこれは、正しくない。軋轢があったらあった、こういう委員構成でやった、ということは、はっきり謳って、それを出せば良いじゃないですか、という風に、私は今のところ思います。で、このコピーについてほしい方はいらしていただければここに50部用意してあります。

F T : 今のお話の中で、重要なのは、このWSの位置づけなのですが、このWSというのが、行政手続きの中のどういうところにあるのか、ということを確認しなければいけない、ということですね。どなたか他の市民の意見も聞いた方が良くとおっしゃったけれども、パブリックコメントとか、この後色々な手続きがあるようでして、それについてはまた後から事務局の方からご説明いただきたいと思います。

参加者 : 皆さんの意見、私はもっともだって感じでいつも聞いているのですが、今の方のお話は初めて聞いたので、ちょっと私としても勉強不足だった、なのですが、メッセージの主題の中でやはり漁港という言葉を入れるのは私としても、これ、漁港の、漁業と漁港に関するWSの中のメッセージだから、出ていても良いのかもしれないですが、一応漁業と漁港の将来ビジョンと入れるのが良いと思います。メッセージの発信先としては思います。鎌倉市とあるのですが、市は行政なので、市議会の方にも発信していただきたいと思います。というのは、和賀江嶋のことを復活させようということを考えている議員の方もいらっしゃいますし、前回のWSの中で、ある議員の方の話が2人出ていましたが、何か、このWSやっていることを知らないんじゃないかなという、伝わっていないという気がするので、結果だけでも良いのですが、市議会の方にも出した方がいんじゃないかと思います。あと、メッセージのまとめ方なのですが、先ほども言いましたように、皆さんの言っていることはごもっともだと思いますので、それをうまくまとめていただいて、その中に入れていただきたいと思います。

参加者 : メッセージの主題ですが、一つ確認ですが、昨年度の成果とは別に出しますか、今年は今年度の成果として出しますか、それとも昨年度の続きとして、昨年のごも含めた成果としてまとめるのでしょうか。

事務局 : 前回もお話が出た気もしますが、23年度の成果はある程度総論の部分でまとめている部分もありますが、今回、より具体的にテーマを絞ってやっていくということになりました。そういう意味では、23年度と24年度に分かれますが、通しでWSの成果という風になるのではないかなと、

第12回ワークショップ議事録

それは皆さんで決めていただけて良いと思います。

参加者：そういうことと言いますと、去年の成果でまとめられた内容が、この「メッセージの主題」に包含されていくのではないかと考えていますので、これについては異論はないです。発信先は、市民と行政側へのお願いをぜひ入れたいと思ひまして、話がありました。計画自体に漁港を造るといふ話があるのですが、賛成反対の意見があり、それがなぜかというところを掘り下げてより具体的に書くというのがこのWSでのメッセージにできれば良いかなと思っています。総意として、反対だとか賛成だとかというところまではおそらくまとめられないと思うので、反対の意見は、こういう理由で、賛成なのはこういう理由です、というところのまとめまでかなというところが正直なところ。市側へのお願いというか、発信するものとしては、仮に漁港の計画が進んでいったとして、アセスメント等の、今、8回か9回ぐらいに戴いた資料だと、定性的な評価、比較をされているところがあって、さっきどなたかからお話がありました。アセスメントやりました、実施しましたというところだけではなく、より定量的な、データで比較をするなり判定をしていただきたいと思ひます。その結果も、市民により広く伝えていただきたいというようなメッセージだと思ひます。以上です。

事務局：先ほど、箱メガネで下を覗いたくらいという話で、環境アセスメントは、まだやっていません。それをやるのはもっと先だと思ひますが、その時はまだ定性的な評価しかしていないので、あれでやったとはとても言えないので、それはもっと計画が進んでいく段階で環境アセスというのは行います。

参加者：何で先なのですかね、始まってしまったら終わりではないですか。始まる前にアセスメントやって。

事務局：今はまだ、何も形が決まってないので、例えば、波がどうだとか、それが先ほどご心配されている砂浜の形状の変化などそういったものを全部やらなくてはいけないのです。今はまだ、その段階ではない、まだ形も決まってない、合意もできてない中では、非常にお金のかかる問題なのでやっていません。ただ、今わかるのは経験則的に、ここにこういうものを造ったらこうなるだろうと、相模湾全体をみても、先ほどご意見もありましたように、まさにその通りなので、それは、あつてはならない、あつたとしても最小限にいくとめる、または復元する努力をするのがアセスなので、それは始まる前に必ずやらなくてはいけないものという風

第12回ワークショップ議事録

に、当然、私どもも思っております。

参加者：ついでに良いですか。腰越漁港の時って、結局環境について調査費が途中で無くなってしまったから、全部はできなかったという結果があって、と聞いたのですが、お金が無いとそういう調査も中途半端なのかなと、私も思って、そういうのもちゃんと見込んでやって頂いているのでしょうか。

事務局：おそらく今言われたのは、県の環境アセスメント条例の対象となるほどの大きさではなかったのですね。ただ、埋立てがありましたので、それに準ずるようなミニアセスをやっています。今おっしゃられたのは、もしかしたら、例えば藻場ですよ、埋立てがありますので、その埋立てをする部分は岩礁帯なので、そこには海藻類がかなり繁茂していて、埋め立てでそれがなくなるために代替地はどこかないのかという話があった時に、調査をしたのだけれども、中々周辺にそれに代わるような場所が無かった、というような結論になってしまった、ということじゃないかなと思います。環境アセスメントに準ずるものは、例えば海浜変形がどうなるかとか、潮の流れはどうなのかとか、そういったものはきちんとやって、埋め立ての免許はとっております。

F T：何か言い残したことはありませんか。

参加者：ちょっとメッセージの主題ということに戻ってお話しますが、先ほどの皆さんの意見の中にちょっと気になる、漁港建設に賛成か反対か、あるいは賛成反対を併記しようというようなご意見があったのですが、賛成反対という風に二極対立に分ける方が、もはや無意味だなという気はしています。未来永劫、鎌倉に、絶対に漁港を造るなという人はこの中に多分いないですよ。結局条件を整えればということなのです。その条件というのは、例えば今の方がおっしゃったように、環境アセスメントをして環境への負荷が調査され、あるいは市民の大切な税金を使うにあたって市民にどういう利益が還元されるのかとか、様々な色々な条件を検討すべきなんだろう、ということは、これは反対意見ではない訳ですよ。非常に前向きな意見なのです。私たちはやはりそういう意見に耳を傾けながら、将来漁港を建設したいという夢を持っているということなので、この辺を、賛成と反対がありました、と併記します、というように、何か対立があったようにまとめるのは、避けた方が良いのではないかなと思うのです。去年のWSの結論から言うと、どちらかと言うと、そういう賛否がありましたというような書き方になっていましたけれど

第12回ワークショップ議事録

も、さらにそれから1年、色々な討議をした結果、やはり理解が進んだということも含めて、鎌倉漁港を造るにあたっては、様々な条件や様々な意見を聞くべきである、ということが、合意されて来たのではないかなと思います。これは変に言い換えている訳ではないですよ。漁港を造るということが、ある種の既定事実で、ということを行っている訳ではなくて、今や賛成反対という、何か二極対立するような形を止めるというか、そういうことを投げ出してしまうというのかな、そういうのはちょっと我々としては情けないなというか、WS全員がそれでは情けないなと思ってしまうのではないかなという気がします。

F T : これ重要な問題ですので。はい、どうぞ。

参加者 : 今の漁業者さんがおっしゃる、気持ちはわかるのですが、私は、はっきり申し上げたいと思うのですが、鎌倉市が二つ港をもつことには絶対反対です。というのは、もうこれ以上環境破壊を進める訳にはいきません。既に提案の中に入っていましたけれども、次のジェネレーションに対して、これ以上の環境破壊を残すことはしたくないし、納税者の立場としてはこれ以上新しく箱物ができて、その費用及びメンテナンスに負担が掛かることは耐えられないということです。

ではどうするのかということですが、それについては色々議論したと思うのですが、やはり浜でやることについてできる限りの対策を打つと思います。港ということに関して、やはり私は、小坪、あるいは腰越を使って、いわゆる鎌倉の漁業協同組合も、今、腰越だとか他の漁業協同組合と統合して、もうちょっと抜本的に、これからの漁業をどうしていくのか、あるいはどのように展開することによって生き延びていけるのかということ、まったく新しい次元でやらなければいけないような気がしています。ただ、漁業をやっていない当事者が勝手なことを言っているということで、ご不満はあるかと思いますが、少なくともそういう意見を持つ市民がいるということは、はっきりと申し上げておきたいと思います。

参加者 : 掘り込み式の漁港についてはどうなのでしょう。漁港を造るにあたっては色々な課題があるというのは、例えば経済的に、お金を掛けて、それが市民に還元するものとなるのかとかあるのですが、やはり大きいのは環境面であり、環境面に関してはマリンスポーツの方とか、住民からも、特に掘り込み式には反対は出ていなかったのも、一つ、その色々な課題をクリアした上で掘り込み式を、という案になるのではないかというこ

第12回ワークショップ議事録

とは、市に対して提案できるのではないかと思います。つまり、色々な法律や条例とかがあってできないという話ですよ。そこを市に対してやはり色々な課題をクリアさせた後に、この事業を考えてみては、ということ、条例を変えてでも考えるべきではないかと提案しても良いかと私は思っています。先ほどご意見があったように、お金を掛けてという、そういう別の課題がありますが、環境面だけは。

F T : もし掘り込み式という案だとしたら、どうお考えですか。それは条件になりませんか。

参加者 : 港を造るということでは、条件にならないと思います。いわゆる、税負担が、市としてどちらにしろ、負担出来ないと思います。ただ坂ノ下の再開発という面で、あそこをどうするかという問題と、港とを、一緒にするべきではないと思うし、私は、再開発については、別途、専門家なり、市民を募って、そのためにあの地域の50年後、100年後を見据えて、どういう開発をしたら良いかということで、まったく新しい別な次元で検討すべきだと思います。

参加者 : 今、ご発言いただいた方の中身についてちょっと教えていただきたいことがあります。まず環境破壊という言葉です。東日本大震災で東北の沿岸はひどい環境破壊をされたし、大きく言えば地球、海底からずり上がったたりずり下がったりですね、大変な環境破壊が、また瓦礫の山が海の底にも湾の底にも沈んだままだと思います。あれは環境破壊じゃないのですか。ちょっと海岸線をいじったら環境破壊だという言葉は、数十年来日本沿岸全部にありますけれども、その辺の環境破壊という言葉と、自然が環境破壊している、それまでは違うものを形成していることについて、差をどういう風に認識したら良いのか教えていただきたいことが一つです。

それからもう一つは鎌倉市の総合計画は、現在、3次の後期の計画をもう1回リチェックしようということが行政から出て、議会も賛成して、そしてシンクタンクにコンサルテーションを投げている訳ですが、今24年度、25年度、27年度までの従前の計画が継続しながら、しかしその先も見据えて、この先3年間を含めてリチェックしようというのが、確か行政の動きだと思っています。そのコンサルテーションの答えが、監査法人がまとめるという形になっていますが、つまりそこで言われていることは、従前の1次、2次、3次をそのまま踏襲していても残っている行政計画はできないというのが一つあります。例えば大船駅東口の再開発

第12回ワークショップ議事録

は随分行政も熱心にやって専門部署も設けていますが、この間の議会でも当局の説明に対して本会議での議員の質問は、総事業費いくら掛かるんだと、大船東口全体で240億円前後かかりますと、お金はどうする気だと、50億円は鎌倉市が用意しなければいけないと思いますと。その50億円の中身は、という質問に対して、10数億円くらいは年度計画で次々と予算計上をして、あとの30数億円は市債を起こすと。それに対して議員の再質問はそれだけだで大変だと、35億円、15億円、50億円を市が要するに用意していると。借金を含めて。では、後の200億円はどうするのだと言ったら、これはもう答えは出ない訳ですね。そういうような中で、総合計画で来ている中で、では大船駅東口はどういう風にしたら、初期の目的にかなったプロセスを組めるかということ、今、議論し始めている訳ですね。事程左様に、漁港の問題も昭和30年からずっとやってきて、松尾さんが選挙に出る前には確か9,000万円くらいの実施予算が計上されているように記憶しています。これは明らかに自主計画の設計予算ですね。で、それを見直すということでもって松尾さんは当選された、というのはこの、WSが開催されてくる所以だったと思うのですよ。ということであるので、結果的に皆の議論が、環境の問題にしても、あるいは、地産池消の問題にしても、それから風景、景観、ランドスケープ、環境の問題にしても、少しずつ皆の質問に答えるような道を探るのが、ここは賢い、今どきのリサーチだと思います。

F T : 今お聞きになられたことから分かりますように、漁港の文言の入れ方は非常にデリケートなですね。この後また、今までの総括、集約をいたしますけれども、メッセージとして漁港について触れるのは、このWSの総意としては中々難しいかもしれません。これだったら良いですよ、という入れ方が見つかれば良いかもしれません。

参加者 : それに関してなんですけど、一番最初の前年のWSの時に「漁港に係る」、で始まって、それで、ある程度その答えが、当面無理みたいなのがありました。でもそれでは、とって、ビジョンがないからと言うのだったらビジョンを皆で考えようよと言って、それで今回「漁業と漁港に係る」になって、結果それがビジョンを中心となったという風に終わったら、そしたらまた、そのビジョンを全てもう1回ちゃんとそれを話し合ったから漁港建設の話に来たんだったら、またいつになるかわからないけど、漁港に関するWS、違う言葉かもしれないけど漁港に関するWSというのが始まる――。結局、全員というか、市民を含めた人たちでぐるっと

第12回ワークショップ議事録

回って来たらやっと終わるんじゃないなくて、今これはもしかしたらビジョンを話し合った結果こうなって、ビジョンを語ったところで終わります、漁港についてはもう1回話しあう機会が必要ですね、ということになるんじゃないかなと思います。

F T : WSとして結論を出すという訳ではなくて。

参加者 : 漁港に関して触れないっていうのも、流れを無理に変える必要はないと思うんですね。話し合ってきた結果こうなった。何も漁港という言葉が入っていないから入れなきゃいけないことは無いと思います。実際そうやって始まって、そうやって始まったのだけど、こういう流れが出来たのだから、それを無駄にすることは無いと思います。またいつか、という言い方はちょっと無責任かもしれないですが、いつか漁港に関して、どういう形でどういう施設を工夫して造っていくっていう、細かいことを決める会ができれば、今はビジョンで良いと思います。

参加者 : 去年最初に私が来たのはどういう漁港ができるのかという、面白そうだなと思ってきたので、タイトルが抜けると、例えば市民の皆さんに今回の結果を出す時に、漁業に関するWSだと、何か勘違いされませんか。

参加者 : いやいや、ただ日本語と言い回しの問題だけじゃないの、皆さん。私に言わせれば、鎌倉漁港を複眼的に考える市民の結論ですよ。

参加者 : まあそういうのは良いと思います。

参加者 : 日本語のことですよ。言い回しの問題ですよ。

参加者 : そうすると、なんか水産業の問題みたいに勘違いしないかなと思います。

F T : それでは、もう1回確認したいのですが、このWSが行政手続き上どういうところにあるかということ、ちょっと事務局から再確認してみます。

事務局 : 何回かご説明をしてきましたが、市の総合計画に位置づけてやってきました。市の総合計画があり、その下に都市マスタープラン、その中にも確かに行政計画として鎌倉地域の漁港建設についての検討ということで、登載されております。その後、漁対協があり、そしてこのWSをやらせていただいています。それで、このWSをやらせて頂いている意味というのは、漁対協の答申を受けてそのままいくんですか、といった時に、市長はもう少し市民の意見を聞くべきだ、ということで、初めてこういったものを開催させていただいています。皆さんの意見は、貴重な意見ということで受け止めさせていただきます。

そして今までやってきた漁対協も含め総合計画、都市マスタープラン

第12回ワークショップ議事録

など、色々ございますが、そういった中で市民意見を受けています。それに加えてこれをきっかけに興味を持った方たちの意見などを、市で総合的に最終的に判断させていただきます。それを最終的に認めていただくのは議会であります。そういう意味では、このWSの位置づけというのは結論を出す立場ではないのですが、皆さんがこれだけ熱意をもってやったということを、市長含めて、伝えなくてはいけないし、市民にも伝えなくてはいけない、そのように思っております。

そういった意味でも、このWSの位置づけとしては、確かに決定する場ではないのですが、今後の市の施策を考えていく中での一つの重要なファクターであるという風には考えております。

ちょっと話がはずれてしまうのですが、先ほどから漁港が入っている、入っていないという話があり、それはそれでも良いのではないかという話もあるのですが、今回寄せられた意見で、ご意見1とか2のところなどにもありますが、「当面とは何なのだろう」という投げかけがあり、確かに前回の成果のところでは「将来に亘って漁港建設を否定するものではない」というような一文も入っております。今後このWSでは、先ほどどんな条件がクリアされれば良いのか、ということに触れていただくのもこのWSからの意見として、我々行政としては、非常に参考になるのかな、という風に思っております。位置づけとしては、先ほど申し上げた通りです。

F T : 例えばこのWS以外、今後ですね、市民意見というのが、行政の意思決定手続きの中に関与する機会というのは、どんなものがあるのですか。

事務局 : 基本構想を作るのであれば、パブリックコメントは行いますが、それ以外にもSNSなどを使って色々意見募集をしたらどうかというご意見もありますから、それは可能だと思います。ですからまた広く、皆さんからこういう、自由に意見をいただくのは可能です。一つは、正式な手続きとしては、パブリックコメントをいただきます。それ以外に、例えば、市のHPの中でそういった意見募集箱みたいなものを作って意見をいただく、といったことも可能だと思います。やっていくべきと思っております。

F T : WSのアウトプットをこの結果は何らかの形で市民が見れるような形になると思いますが、今のお話のものというのは一般市民もどんな風に閲覧できるようになるのでしょうか。公開されるのですか。

事務局 : パブコメは必ず公開されますけども、個人的な意見で出たものについて、

第12回ワークショップ議事録

公表して良いかどうかというのはちょっとその方に確認をしなければいけないのかなと思います。例えば誹謗中傷的な意見もあったりなどもするかもしれませんので、その辺はちょっと慎重にやらなくてははいけないと思います。全て出せるかどうかというのは、その方の意見、内容を見てご相談なのかなと思いますが。

F T : という位置づけだそうですけども、この時点で何かご質問はございますか。

それではですね、我々がこのまとめ方の原案みたいなものを出来れば次回にご提出して、それで意見交換するということになるかと思いますが、今までのところのざっと総括をしたいと思いますのでお願いします。

F T 補 : まだまとめきれっていませんが、まず、事前に頂いたご意見というのを、皆さんのお手元にある資料を、水色の紙で、問題提起であったり、意見、感想、質問という風に、大雑把にですが、分けてあります。話し合いの中でも、この後もどんどん書き足していきたいと思っておりますが、今日の段階で、今整理しなければいけないものという論議は、まず概ねF T が、前回までの流れで少し言葉として、仮でまとめた内容について1、2、3、のレベル付けをどうするかというのが一つ提案されています。

今三つ併記されているものが、必ずしも併記、並列ではなくて、この鎌倉地域の漁業の将来ビジョンという中に、喫緊の課題と、水産業のことについてというのが含まれるのではないかというのが、一つ、ご提案いただいています。

二つ目が、漁港についてというのがメインテーマで始まっているのだから、その漁港という言葉をやはり入れるべきではないかという話があります。これは漁業の将来ビジョンということにしていますと。これまでのマスタープランでの位置づけと、漁対協の答申の中で、漁港についていくつか明記されているものがあるのですが、それとの位置づけということを考えて、漁港について語ってきたというのを、どういう風にタイトルに入れるのか、文言の中に入れるのか、というのは、すごく大きな課題ではないかなと思いますので、これは丁寧に話し合っていた方が良くかなと思います。それらについては誰に向けてということと、また皆様のご確認が必要ということとでなのですが、大きく、市に対して、あるいは議会に対してということと、ビジョンですが、今後、具体的に、前回までの流れで言うと、自分たちから動いていかないと、

第12回ワークショップ議事録

物事は動いていかないということを、皆さんおっしゃられているということをお考えますと、具体的にメッセージを発信したは良いけど、それを一体誰が担っていくのかということも含めて、少し慎重に考えていく必要があるのかなと。投げっぱなしになってしまうと、また、この今まで費やしてきた皆さんの時間ももったいないので、少し、誰がどう責任を取って、誰にどうメッセージを発信していくのか、というのを少し具体的に整理していく必要があるのかなと思います。言葉としてはこれでもう一回持ち帰って、整理する必要があるので、今日のところは、ちょっと、集約のところまでは作業レベルでは追いつきませんが、色々な意見がとにかく出されているのを、もう少し整理して、特にこの3本柱を、並べ方であるとかに合わせて整理をして頂いたものをみなさんに見て頂く必要があるのかなと思います。

F T :ざっとした集約ですけど、何か抜けている点、補足したい点はございますか。

参加者 :ご意見を読みましたが、よく、税金の無駄だからやめろというのは、おっしゃる通りなのですが。では、漁港建設に税金を使わなければ、それで何をするのか、ただ闇雲に削れと言うのだったら、漁港以外に無駄なことなどいっぱいあるのだから、全部削っちゃえと。

参加者 :維持管理費まで考えてくれますか。養浜をするにも浚渫するにも何億円もかかる、建設した後には。

参加者 :でも相対的なもので、じゃ、他にも色々あるじゃないですか、公園整備とか、色々。

参加者 :そういう積み重ねが今の日本を作ってしまうのではないですか。

参加者 :ある意味、ここだけではなくて、他もターゲットにしてはどうですか。確かに予算がない、税金は削った方が良くと思いますが、なにもね、そういうことを言うのだったら、ここではなくて、議会へ行って、無駄な予算を省かせる、財政含めて予算全部見て、そっちの方をやった方が良いのではないかなと私は思います。

参加者 :税金に関してという話は、国民の税金全員関係あることなので、そのお金をただ漁業者さんたちが自分たちの仕事が大変だから、皆のお金で解決してねっていうところにやはりちょっと問題があるのかなと思います。それは歴史的なことがあると思うのですが、聞いていると、漁は大変だろうけど楽しくてやっている、おもしろくてやっているという意味もあるというような話がさっきも漁業者さんの口から出ていました。それに

第12回ワークショップ議事録

皆がお金を出して漁港を造りますというのだったら、多分こんなに揉めないのではないかと思うんですね。もちろん場所が場所なので、揉め方が違うと思うのですが。自分たちが大変だから、一般的には自分のことが大変だったら、自分のお金でなんとかしますよね。でも国民のお金を使って自分の生活を守ってねというのが、ちょっと皆がやはり反抗するところではないかと思うのです。ただそれは歴史的なことであって、その漁業とか農業とかを税金でなんとかして行かなければならない、保っていかなければならないからということがあるのでしょうか、今のこの時代に中々それが受け入れられないという状態があるのかなと思います。だから皆さんたちも、ビジョンを話し合ってと言って、皆の理解を得た方が良く思うんです。自分たちの仕事が大変だから、と押していくと、やはり反感を買うだけではないかと思います。自分たちの税金で造っても、どこの漁港でも漁業者さんたちから置き場代って取らないですよ。もしこの前、現地調査の後で話に出たように、戦後に造られた漁港とは全く新しい、違うものを造ろうというなら、例えば漁業者さんたちも置き場代を払い、店なりなんなりができるのならその人たちが場所代を払うとか、そういう風にして、漁業者さんたちからもお金を払ってもらって共同運営していくみたいな、新しいタイプの漁港とか、そういう風に話がいくならわかるんですけど、自分たちの作業が大変だから、造ってね、それだけを押してくるのが反感を買っているところだと思います。税金のことに關してはそうじゃないかと思います。

参加者：でも今の政府や自治体の役割として、産業振興というのはある程度やっていますよね。世界中どこの国でもやっています。大変だから出すというのものもあるかもしれないが、でも、そんなことを言ったら、例えば工場とか、どんな産業も税金の免除か何かである程度の助成金受けているではないですか。どんな仕事も大変なんですけど、なにも、漁業以外にもたぶん助成金を受けている産業ってあると思うので、そんなことを言ったら、全産業の産業補助金を止めてしまえということになるのではないですか？

参加者：でもそれを当たり前だと思って、未来永劫当たり前だと思っていることはちょっと問題かなと思うんですけど。

参加者：精神論ですか。

参加者：いや、そりゃ漁協だってすぐに金を用意するよ、きっと。100万円ぐらいなら。

第12回ワークショップ議事録

参加者：だから違います。造ってもらいたい側というよりは、漁業者さんが自分の気持ちを訴えるのではなく、気持ちを訴えた上で、漁業者の方がいつも提案してくれているみたいに、こういう風にやって、皆で造っていきよ、という方向に持って行って皆の気持ちを動かさないと。大変だからと言っているだけだと、先に進まないのではないかなと思っています、税金に関して言えばそうです。

参加者：今、財務省のような議論が出て、非常に高邁なことを考えている人がたくさんいるのだなと思ったのですが、私が提案したいのは、お金を使うから、税金がどうのこうのと言う前に、これ、産業振興課が担当しているのですね。それ以外の鎌倉市のプランは都市計画課、経営企画課、これがプランしているのです。なんで産業振興課がやっているかとお考えになったことがありますか。私が言いたいことは、この去年の10月25日に内閣府で我が国の食と農林漁業の再生のための基本方針構造計画、これで、今の第1次産業と言われている農業、漁業を6次産業化しようじゃないかという、極端なわかりやすい言葉で言うと、お金を稼ぎましょうと。地産池消という言い方もあるでしょうけど、色々あると。それならポジティブになると思うのですね。いくら使うからやめろとかね、そうすると自分の家の前の、マンションの前の道はお前たちで直せと、こういう・・・。

参加者：マンションのことばかり言いますが、誰もここにいる人は、マンションに住んでいる人は、マンションの前だから嫌だという言い方は1回もしてないのですよ。少なくともここで話し合っている人はそれを越えて話し合っているのに、マンションのことばかり言わないでください。それであなたは自分がマンションに住んでいたら嫌って言うでしょ。何でマンションのことばかり言うのですか。

参加者：マンションはいくらでもあるんです。日本人のマンションはあなたのところだけではないです。

参加者：それであなた陳情出しましたよね。45人のうちの7人出てるって、その数字嘘です。

参加者：そんな議論時間がもったいないからやめた方が良いでしょう。

参加者：そういうのをわざわざ陳情で出しといて、違う数字を入れるってどういうことですか。

参加者：やはりああいうのは誤解されますよね。

参加者：そうですよ、傍聴者の事だって。

第12回ワークショップ議事録

参加者：時間がもったいないですよ。

事務局：ちょっと冷静にいきましょう。この話はこの場ではちょっとやめましよう。

参加者：そんなことを言われても困るのだけど。要は、皆で、産業振興課が担っているこのプロジェクトでお金を稼ぐようにしたらどうでしょうという考え方はないのですか、という提案をしたいです。政府から内閣府決定で第1次産業を六次産業化しましょうと、いわれている訳です。それについてどう考えますか

参加者：でそれは私が答えましょう。政府は、お金はないけど掛け声だけはどんどん出すのですよ。だから民の力を導入しなきゃ駄目なの、もう、PPPとかPFIとか、年来言っただけの事を、鎌倉市もその気になって作り始めている訳です。急ぐならば、それを先取りして利用していくかどうかです。現実の一つ私はやっていますよ。30億円から40億円かかるよ。だけどこの間正式に鎌倉市と、それから次は4県市があるから各自治体の皆と連携は構築しますよ。鎌倉市と構築できましたよ。その前に地主と鎌倉の代表する大企業等が、組んでくれましたよ。そして鎌倉市と今色々な考えを出しているから、それには積極的に貢献をしますよと、だから連携の構築を、喜んで交流しますと、こういうことです。

参加者：ということはね、やろうと思って、やればできるのだよと、あなたの言いたいことはそういうことですね。答えが出たではないですか。私が提案しているのは、聞いているのは、こういうことですよ、皆さんどうですかと。

参加者：ただしその場合、私は今回のこのことは複眼的にと思います。複眼的に色々な要件があるから結果よし、結果よし、ということに皆少しずつなることを考えれば良いということです。もっと具体的に言うと、FTと同じ大学で、あなたより大先輩の方が、あるエンジニアリング会社の大手の常務取締役です。その人たちは東日本大震災が起きた時色々な沿岸地域から頼まれたことは、かつてその会社が、それほど大型は無いと思うけど、エネルギータンクを随分沿岸に建てたのですね。それが皆、ほとんどそばに漁港があると、皆やられたということで所管の自治体から復旧と、その先の復興の絵を描いてくれと言われていたけれども、復旧のことに目先が自治体たちはすぐにいっちゃって、また同じことをやるか、というようなことは悩ましいけれども、具体的にどんどん絵を描いて各自治体に出していくと、ということを私は、引っ張っていこうと

第12回ワークショップ議事録

思っています。新しくやると言うのであればね。

参加者：では、それって開発の話はなんですか。

参加者：漁業組合もやる気になって、意気込みが無いとね。金が無くても意気込みだけはしっかり持ってもらわないと。

F T：今のは例えばの話です。WSとしてどうするかとはまた、まとめなきゃいけないです。

参加者：さっき彼が税金について使うって話に、なんか別の方がおかしいことを言っているような流れになって、私は気になるのですが、彼が言っていることが、私はおかしいと思っています。要するに税金はちょっとぐらい、無駄にしても良いのではないかというのはおかしいと思います。

参加者：無駄とは言っていません。必要なら出せば良い。ただそれは闇雲に、税金をこれ以上無駄に使いたくないから止めましょう、というような感じに受け取るのですが、果たしてこれが無駄かどうかわからないじゃないですか

参加者：だからそうでしょう。無駄に使って良いとあなたは言っているのではないのですか。

参加者：私は言っていません。漁港が無駄というような意見はやめなさいという…。

参加者：私らの感覚は。

参加者：あなたの感覚ですよ。

参加者：そうですよ、最初に言いたかったのは、私だけの感覚かと思ったのですが、私の知り合いの人で事業をやっている人にこの話をしたら、それって何もリスクが無いよね、と。自分たちはほしい、ほしい、と言って、手に入れば、それが上手く行かなくても何も失うもの無いよね、と。自分たちで事業をやる人間は、自分でお金をかけて、失敗したら自分のお金が無くなっていく。

参加者：漁業者の方だって自分たちで船を買ったり、あそこで浜に揚げたりとか、浜小屋造ったりしてやっているじゃないですか。

参加者：漁港についても同じであって良いのではないですかね。

参加者：漁港に関しても。

参加者：はい。

参加者：ある程度、じゃ例えば何%は出してもらおうとか。

参加者：いや、あなたがそういう言い方をしなくても、要するに1年間そういう議論をしてきて、漁業者の方から将来的なビジョンをちゃんと持って、

第12回ワークショップ議事録

これから儲かることをやっていくようにしていきたい、行政に頼らないで自分たちでやっていきたいと、そういう意見が出ているのですよ。ちゃんとお金が掛かったものは市民に還元していくという意見が出ているのですから。

参加者：だからあの事業体はすごく良いと思ったんですよ。皆で出し合って、それで皆が同じように向って、皆が未来に向かってやっていくなら。

参加者：だから、そういう風に税金を使わないで。

参加者：ここまで話をまとめてきたのに、税金を少し位良いってというのは、その言い方はおかしいんじゃないですか。

参加者：おかしくないです。私は少しくらいとは言っていません。だからそれは、使っても良いと思いますよ。

参加者：漁港漁場整備法で国が半分出すって決まっていますよね。

事務局：色々あるのですが、例えば今回の腰越漁港を例にとれば、今の交付金の制度ですが、国が2分の1以内で、県が4分の1以内、残りが市、ということになっています。これは地域によって違います。例えば沖縄だとか、離れ島のように非常に厳しい条件のところは、国が負担する率が高いのですが、本土については制度上そういう負担割合になっています。

参加者：今、言ったご意見で、例えば漁業の人は何も苦勞しないで、お金出さないう税金出してくれるから漁港を造る、それが気に食わない、それが市民として納得できない、というご意見ですか。

参加者：そうじゃないですよ。だからここに挙げられているように、将来のビジョンを考えていきましょう、ちゃんと産業として成り立つように作っていきましょうと、行政に頼らないで自分たちでやっていこうと、それで良いじゃないですか。

参加者：そういう意見もあるし、違う意見もあるということです。だから100%民活にする必要はなくて。

事務局：ちょっと色々な意見が出されているのですが、例えば漁港がまったくない所、または改修する場合でもそうですが、簡単に補助金とか交付金とかは受けられません。例えば、漁業者さんは、確かに普段の就業の中では非常に効率的にはなるのですが、それも一つの大きな要素ですが、それ以外に地域にどれだけ還元できるかというソフト、例えば、今、6次産業化や地産池消などによって、地元に対してどんな経済波及効果があるのか、これも採択される時の大事な要素なのです。ただ単純に漁業者さんたちの就労環境を改善するためにやらせてくださいって言ったら、恐

第12回ワークショップ議事録

らく採択されないと思います。だからこれに加えて、今まで出していたような、市民還元は何なのかとか、それをやることによって他の産業に対する経済波及効果はどうなのかとか、または観光に対する集客はどうなのかとか、そんなような色々なPRできる、それを造ることによってプラス効果がどれだけ見込まれるかによって、例えば20億円掛かる投資をしてもそれ以上の効果があがるということを検証します。これが、費用対効果分析ということなんです。ですから漁業者の方だけが就労環境が良くなるからといって、20億円を回収できるということは難しいと思うんです。ですから、計画を作る時には必ず、漁業者さんの立場としてはそういう意見があるということを理解していただいて、それ以外の市民の方は、どうしたらもっと、市民の皆さん、税金を負担されている方にとっても良い港になるのかということをやっていきましょうという風に、私はこのWS、今年に入って、去年からもそうでしたが、特にこの、漁業者さんの現場を見ていただいた時、それからビジョンを聞いていただいた時に皆さんがかなり濃い反応というか、興味を示していただいたので、それは良い方向なのだろうなと思っています。ですから、ただ単に税金、税金と言うこともありますが、どうやって使うか、それはただ、漁業者さんが大変だから使うというものでもないし、皆さんや市民の方も含めて、納得しているものでなければ、恐らく、国なり、計画を採択する部署では、中々良いよとは言ってくれません。だから、漁業者さんが大変なので造らせてくださいと言っても多分門前払いをされてしまいます。そこを皆さんで、折角ここまで来たのですから、色々な良い意見を出していただいているのですから、どうやったら、この将来ビジョンも含めて、どれだけ市民に還元できるのか、これだけの税負担をしていくという理解を求めていけるのか。漁港は端からいらぬという方から見れば全然違うかもしれませんが、そういう方向で話がしていただけているのかなと感じておりましたので、先ほどちょっと色々な意味で熱くなってしまいましたが、冷静にもう1回考えていただきたいと思いました。

参加者：ちょっと論点がずれてしまうかもしれないので、恐縮なのですが、私がこれまで参加した中で、すごく感じているのは、結局のところ、漁業と考えた時には、漁業者さん対市民対漁港みたいになってしまうのですが、鎌倉って考えていくと、お寺が残っていて、きれいだなと思うのですが、漁業って建物とかが残っていないから見えないのですが、結構、鎌倉の

第12回ワークショップ議事録

漁業って歴史があったりとか、カツオを献上していたりとか、そういう話があって、和賀江嶋があったことも実はここに参加してから知りました。よくよく考えてみたら、食文化とか、鎌倉の歴史を語り継ぐという意味があって、それは今まで残っていたものに対して、これからどう残すかという意味へ転換させていった方が、もっとすごく良いのかなと思います。お坊さんとか有難いのですが、それよりも現実的に、漁業というところが、市民と密接に関係しているのだ、ということがわかったことが、すごく、身についたというか。そこをもっと活かせる方向を考えるという意味では、もっと良いやり方があるのではないかな、ということはずっと考えながら、ここに参加している、というのが私の感想です。だから、今を考えるよりは、これから先を考えたいというのが意見です。

F T : それには、その発想をメッセージにいかに入めるかということですね。そろそろ時間なのですが、最後に、先ほど、議事録の現地調査後の意見交換の記述にちょっと疑問があるということでしたが、どんな点を省いたかというのを事務局、説明できますか。

事務局 : 基本的に特に省いているという感覚はないのですが、たしか最後のところですね。どなたかが、議論が終わった後で、質問という形で、漁業者さんたちは他に移れるんですかという一連のやりとりがありました。それはちょっと最後の質問ということで本論に関係がないということで省略はさせていただきましたが、それ以外のところでは聞ける範囲のところを基本的には入れているつもりです。もしかしたらその一部、音が重なってしまっていて、聞こえなくなったことがあり、そのちょっと一部分が抜けてしまっていることがあるかもしれません。

F T : もしお気づきの点で、これはちょっと書いておいてください、記録に残してくださいという時にはお伝えください。はい、なんですか。

参加者 : 傍聴席で聞いたのですが、ちょっと部分的なことになってしまうのですが、私は鎌倉の坂ノ下という所がすごく好きで、漁業者さんも住民の方ももちろん海レクの方も皆好きなのですが、現地調査の時にサーファーがたくさんいて漁業者さんの作業に邪魔だから、やはり港をという流れだったのですが、その中でWSメンバーとして出ている友人が、海レクと漁業者さんのソフト面で、海に出るアナウンスなどの、システムがあるとか、出る時には必ず漁業者さんが出やすい時に避けるとか、そういうことを地元のお店の人たちが海沿いでそういうお店をやっている人たち

第12回ワークショップ議事録

にも周知していかないといけないね、と海レクの人たちは思っていたのです。もっと協力しなくちゃねと。組合長さんも、地元の方はわかっているのだと言ってくださいましたよね、地元のサーファーはわかっているのだと言ってくれたのもすごく嬉しかったし、そういうところを、私としてはすごく大事だったのですが、このWSとはまたちょっと違うのですが、坂ノ下の海レクと漁業者さんたちとの関係をこれから先、良くしていくためにも、あ、今良いのですよ、今良くて、これから色々な人が入ってくるから、誤解が生まれてしまうのですが、せっかくなまくいっているのに、ということメッセージとして残しておいていただけたらと思います。

F T : はい。その他にももし、抜けているな、と思われて、ぜひともというのがありましたら、メールか何かでご連絡ください。

それではちょっと、非常に重い課題もいただきました。言葉の問題だと言う意見もありました。言葉の問題も非常に難しいので、とにかく次回までには粗々のところをご覧いただいて、こういうキーワード、こういう構成でよろしいかどうかということ、皆さんに見ていただけるような資料を、まとめられるかどうか頑張ってみますので、よろしくお願ひします。

参加者 : それは事前に送られてくるのですか。

F T : どうですか。

事務局 : 次は11月17日です。今回は最終回になってしまいますので、私どもとしては、その前になるべく早く、一回送らせていただいて、見て頂きたい、そして、ご意見をどんどん頂いて、なるべく最終回には、かなり完成度の高いものにして見て頂きたいと思っています。今日の議論のために前回の物だけをご用意させていただきましたが、今までの議事録は、今年度に入ったものについてもご意見をいただきたいと思っています。併せて、今までの会議録、今年度の分も、なるべく早いうちに送らせていただいて、表現等、誤り等の意見がありましたら、あわせてお寄せいただけたらなという風に考えています。よろしくお願ひ致します。

F T : あとは、申すまでもないことかもしれませんが、ここでの意見の対立はこの部屋の中であって、一歩外に出たら、普通に戻ってください。では、どうもありがとうございました。

第12回ワークショップ議事録

終わりに

事務局から次回の開催予定、閉会挨拶を行いました。